



聖書 II 歴代32・9～22

テーマ ヒゼキヤ

暗唱聖句 彼とともにいる者よりも大いなる方が、私たちとともにいてくださるからである。 II 歴代32・7
目 標 大いなる神の守りを信じて生きる。

7月7日（日）

聖書
聖句

II 歴代32・9

アッシリアの王センナケリブは、その家来たちをエルサレムに遣わした。彼自身は全軍を率いてラキシュを攻めていた。 9節

先週は分裂してしまったイスラエルをまなびました。北イスラエルと南ユダにわかれたのですが、その南ユダ王国に大ピンチがやってきたのです。

南ユダに、アッシリアという大きくてつよい国がせめてきました。ふつうに考えて、ユダが勝てる相手ではありません。その時のユダの王様はヒゼキヤ。彼は、心から神様を信じている王でした。神様を信じる人にもピンチはやってきます。でも、ピンチがやってこようと、そこでたすけてくださるのは、やっぱり神様です。

祈り 天のお父様、ピンチからたすけてくださるあなたの力を、おしえてください。

7月8日（月）

聖書 II 歴代32・10～14

聖句 おまえたちの神がおまえたちを私の手から救い出すことができるとでもいうのか。 14節

アッシリアの王はセンナケリブ。彼は、ヒゼキヤとユダの人々に「おまえたちが信じる神は、おまえたちを助けられない」と言っています。彼は、偶像礼拝する国々をやっつけてきたので、「おまえたちだって同じだ、ほかの国の神々は、誰も助けなかったぞ」と言うのです。

センナケリブは、ほんとうの神様と偶像をいっしょにして、神様を信じるなど言ってきました。神様はあなたたちを助けてくれないよ！と神様への信頼を失わせようとしたのです。いまもこういう誘惑はあるから、気をつけて。

祈り 天のお父様、あなたへの信頼を失わせようとする誘惑から、わたしをお守りください。

7月9日（火）

聖書 II 歴代32・15～17

聖句 おまえたちは、ヒゼキヤにごまかされるな。このようにそそのかされてはならない。彼を信じるな。 15節

センナケリブは、こんどはヒゼキヤの悪口を言いふらしています。ヒゼキヤがユダの人々に「神様が助けてくださる。神様が戦われる！」と話して、はげましていたからです。「ヒゼキヤにだまされるな」と、神様を信じるヒゼキヤを悪く言い、ヒゼキヤ王とユダの人々のかんけいをこわす悪だくみです。

いまも、神様を信じる人がばかにされたり、悪口を言われることがあります。でも、ここで忍耐！神様が助けてくださるときがかならず来るので、待ってください！

祈り 天のお父様、あなたを信じることをばかにされても、忍耐してあなたの助けを待てるよう、わたしをお守りください。

7月10日（水）

聖書
聖句

Ⅱ歴代32・18～19

彼らは、城壁の上にいたエルサレムの民にユダのことばで大声で呼びかけ、民を恐れさせ、おじけさせて、この町を取ろうとした。 18節

苦しいヒゼキヤとユダの人々に、さらにセンナケリブの家来も大声をあげてきました。イザヤ書とⅡ列王記にもこのシーンが書かれています。「おまえたちの神は助けてくれない。ヒゼキヤの言うことは聞くな！ 降参するんだ！」。ここまでつよく言われると、ほんとうにそうかも…と思ってしまうそうです。

神様を信じて意味がないかも…と思うこと、これが人生でいちばんのピンチ！ でも、それは悪魔の作戦だと覚えていてください！

祈り 天のお父様、あなたをうたがわないで信じていきます。わたしを悪魔の作戦からお守りください。

7月11日（木）

聖書
聖句

Ⅱ歴代32・20

ヒゼキヤ王と、アモツの子、預言者イザヤは、このことについて祈り、天に叫び求めた。 20節

あ～、ここまでは苦しいシーンでした。しかしそれもここまで。ヒゼキヤ王は、さんざん神様と自分の悪口を言われ、おどされましたが、つらい気持ちを神様に祈りました！ しかも、ひとりではありません。ヒゼキヤには預言者イザヤという心強い祈りの友がいたのです。ヒゼキヤとイザヤは心あわせて、天地をつくられたほんとうの神様に祈ったのでした。

あなたには教会のお友だちがいるでしょう。ぜひ、お友だちとともに祈りましょう。ヒゼキヤにもあなたにも、すごいことがおこる予感！

祈り 天のお父様、いっしょに祈るすばらしさをしました。教会のみなさんと祈りの友になって、いっしょにお祈りします！

7月12日（金）

聖書
聖句

Ⅱ歴代32・21～22

【主】は御使いを遣わして、アッシリアの王の陣営にいたすべての勇士、指揮官、隊長を全滅させた。 21節

さあ、ついに、神様が助けてくださる時がきました。たったひとりのみ使いがつかわされ、アッシリアの大軍はあっという間にほろぼされてしまいました！ あわててにげたセンナケリブ、神様をさんざんばかにしたのを後悔しても、もうおそい。神様を敵にした結果、彼もかなしい最期をむかえたのです。

どんな大軍、武器も、この世のどんなものも、天地をつくられた神様の相手にはなりません。神様がくださる勝利は、圧勝です。

祈り 天のお父様、わたしがピンチのとき、あなたが圧倒的な勝利をくださることを信じます！

7月13日（土）

聖書
聖句

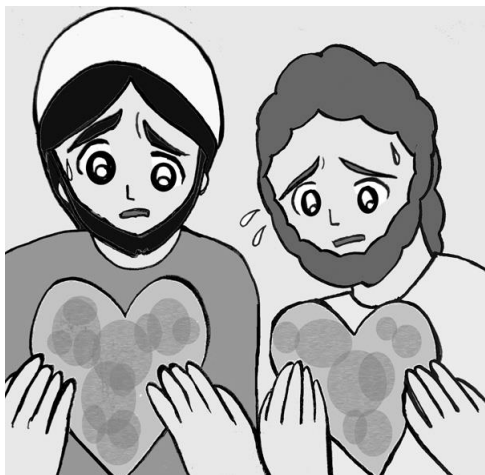
Ⅱ歴代32・7

彼とともにいる者よりも大いなる方が、私たちとともにいてくださるからである。 7節

ヒゼキヤは、ふつうに考えたらぜったい勝てない戦いなのに、「わたしたちとともにいる神様はアッシリアよりもっとすごいお方だ！」と神様だけを信頼しました。すると神様は、ヒゼキヤが予想できない方法で、完全勝利され、ユダ王国を守ってくださいました。

あなたがピンチのとき、ヒゼキヤのように、まず神様を信頼して祈ること。戦いがつづいてつらくても、神様にたよって祈りつづけてください。だいじょうぶ。はっきり言って、神様はあなたが考えるより、すごいお方ですから。

祈り 天のお父様、あなたはわたしの想像よりずっとすごいお方です。あなたの守りを信じて、あゆんでいきます。



聖書 マルコ 7・14～23
 テーマ 人を汚す罪
 暗唱聖句 これらの悪は、みな内側から出て来て、人を汚すのです。

目標 マルコ 7・23
 内面の罪に気づき、悔い改める者となる。

7月14日（日）

聖書 マルコ 7・14～17
 聖句 みな、わたしの言うことを聞いて、悟りなさい。 14節

聖書には、いろんな神様のおしえが書かれています。でも、パリサイ人や律法学者たちは、人間の考えやつごうで、聖書のほんとうの意味を変えて、人々におしえていました。それで、イエス様は「それはまちがっていますよ。わたしの言うことを聞いて、悟りなさい」と、人々におしえておられたんです。

でもときどき、弟子たちもイエス様の言っていることがわからなくて、イエス様にしつもんしていました。みことばのほんとうの意味を知るために、わたしたちはいつもイエス様に聞くひつようがあるのです。

祈り 天のお父様、あなたのみことばのほんとうの意味を知るために、いつもイエス様にきいていきます。

7月15日（月）

聖書 マルコ 7・18～19
 聖句 外から人に入ってくるどんなものも、人を汚すことはできません。 18節

パリサイ人たちは、食事をするとき、かならず手をあらって食べていました（2～4節もよんでね）。だから、手をあらわないでパンを食べたイエス様の弟子に、「なんで手をあらわないの？ わるいことだ」と責めたのです。手をあらう、というのは人のおしえなのに、まるで神様のおしえのように考えています。手をあらわないのは罪だと思っていたのです。

イエス様は「汚い手で食べて人の中に入ったとしても、それが人の心を汚す罪ではないでしょ。食べたものはトイレで出ていくだけでしょ」。いや～、まったくそのとおりです。

祈り 天のお父様、人の考えを神様のおしえだとかんがえないよう、助けてください。神様のおしえに耳をかたむけます。

7月16日（火）

聖書 マルコ 7・20
 聖句 人から出て来るもの、それが人を汚すのです。 20節

イエス様は、汚い手やお皿で食べたとしてもそれは人の心の汚す罪ではない、と言われました。さらに言われます、「人から出て来るものが、人の心を汚すのです」と。心の中を汚す罪は、人の心の中から出てくるんだ、というのです！

さあ、イエス様が、人がおかす罪をつぎつぎと話されますよ。…聞きたくないかも…。いやいや。どんな罪があるのか知ること、そして、しっかり自分の罪とむきあわないと、罪が解決しません。イエス様はあなたを愛しておられて、くわしく話されたのですよ。

祈り 天のお父様、イエス様はわたしを愛してくれて、罪を教えてください。わたしがしっかり罪とむきあえるよう、助けてください。

7月17日（水）

聖書 マルコ 7・21
 聖句 すなわち人の心の中から、悪い考
 えが出て来ます。淫らな行い、盗み、
 殺人、
 21節

イエス様がまず話されたのは「淫らな行い」。
 すべての性的な罪です。気をつけて。本もイン
 ターネットも、いやらしい情報だらけ。ほか
 にも、結婚をしていないのに恋人同士で住んだ
 り、お泊りしたり。それは罪だとイエス様は言
 われます。淫らな行いは、しあわせな結婚を
 台無しにします！ 次は「盗み」。万引きだけ
 じゃない、かりたものを返さないのも盗みです。
 「殺人」。これはないよ、と思う？ 心の中で人
 をにくむことも、心で殺人をしているのです。

いの 祈り 天のお父様、淫らな行い、盗み、殺人の罪
 をしりました。罪を犯していたら教えてく
 ださい。そしてどうぞおゆるしてください。

7月18日（木）

聖書 マルコ 7・22
 聖句 姦淫、貪欲、悪行、欺き、好色、
 ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、
 22節

「姦淫」は、結婚している人が、夫、妻以外
 の人を恋人にすること。家庭をこわすおそろし
 い罪です。「貪欲」。お金のことばかり考 えたり、
 ほんとうは必要ないのに、あれもこれもほしい
 という、よくばりのことです。「欺き」。人にう
 そをついたり、だましたりすることです。わた
 したちはうそをつきやすいものです。「好色」。
 異性を見るとき、あの子カッコイイ、あの子カ
 ワイイ、あの子も…と度がすぎるのは好色です
 よ。神様がつくられた 尊い人として、異性を見
 てほしいのです。

いの 祈り 天のお父様、姦淫、貪欲、欺き、好色の
 罪をしりました。わたしの罪を教えてください。
 23節

7月19日（金）

聖書 マルコ 7・22
 聖句 姦淫、貪欲、悪行、欺き、好色、
 ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、
 22節

「ねたみ」。悪い目で人を見ることです。く
 やしい、頭にくる…そんな目で人を見ること
 はないですか。「ののしり」。悪口を言うこと
 です。悪口の罪は、みんなが犯しやすく、自分で
 気づきにくいのです。「高慢」。自分はあれがで
 きる、これもできる、あの人よりわたしのほうが
 いいよね…と、じまんする心です。神様にた
 よらなくても平気、わたしできるもん…これが
 いちばんの高慢。「愚かさ」。正しいことか悪い
 ことかを考えないで、人を困らせたり悲しま
 せたりすること。あなたはどうか。

いの 祈り 天のお父様、ねたみ、ののしり、高慢、愚
 かさの罪をしりました。わたしの心を調
 べて、はっきり罪を教えてください。

7月20日（土）

聖書 マルコ 7・23
 聖句 これらの悪は、みな内側から出て来て、
 人を汚すのです。
 23節

どうして、わたしたちは罪を犯すのでしょうか。
 それは、心の中に罪があるから、罪を犯してし
 まうのです。心の中にある罪をみとめないと、
 いつまでも解決しません。そして、永遠の滅び
 にむかっていってしまうのです。

罪をみとめるって、むずかしい。わたしは悪く
 ない！ と言いたくなります。でも、イエス様が
 永遠の天国にむかえてくださる人は、罪をみと
 めて悔いあらためる人。イエス様は、あなたが
 罪を悔いあらためることを、なによりも喜ばれ
 るんですよ！

いの 祈り 天のお父様、わたしの心に罪があることを
 みとめて、悔いあらためます。わたしを永遠
 の天国にみちびいてください。



聖書 I コリント 15・3～8
 テーマ キリストの死と復活
 暗唱聖句 キリストは、聖書に書いてあると
 おりに、私たちの罪のために死
 なれたこと…三日目によみがえ
 られたこと。
 I コリント 15・3～4

目標 キリストの十字架の死と復活が
 私たちのためと知り、キリスト
 を信じる。

7月21日（日）

聖書 I コリント 15・3～4
 聖句 キリストは、聖書に書いてあると
 おりに、私たちの罪のために死なれた
 こと…三日目によみがえられたこと。
 3～4節

イエス様の十字架と復活のできごとは、ユダ
 ヤの国をとびだし、25年後にはギリシャの都市
 コリントにとどいていました。伝えたのはパウ
 ロという人です。

もし、イエス様のことが伝言ゲームみたいに
 少しずつねじまがって伝わっていたら、日本に
 とどくころにはぜんぜんちがうお話になって
 いたよね。でも、全世界に同じものが残り、伝
 えられているということは、正しく受け取り、
 正しく伝える人がいたからだね。すごいね！

祈り 天のお父様、イエス様のことがわたしの
 国にも正しくとどいていることを感謝
 します。

7月22日（月）

聖書 I コリント 15・3
 聖句 最も大切なこととして伝えたのは、
 私のも受けたことであって、次のこと
 です。 3節

パウロは「最も大切なこと」はなにかを教え
 てくれています。

もし、イエス様が死んで生き返らなかったら？
 無駄の罪で殺されたかわいそうな人だし、
 聖書に書いてあることはぜんぶウソで、キリス
 ト教はなくなるよね。でも、イエス様はよみ
 がえっただけでなく、たくさんの証拠も残した
 んだね。証拠があったから、本当に起きたこと
 として伝えられたんだね。

これがグッドニュース、福音なんだね！

祈り 天のお父様、イエス様の死とよみがえり
 がいちばん大切なことだと知ることが
 でき、ありがとうございます。

7月23日（火）

聖書 I コリント 15・5
 聖句 また、ケファに現れ、それから十二
 弟子に現れたことです。 5節

ケファというのはイエス様の一番弟子ペテ
 ロのこと。イエス様と三年半いっしょにいたお
 弟子さんたちも、十字架の意味や、そのあとお
 きることが理解できませんでした。イエス様が
 死んだとき「ああもうだめだ、終わりだ」とガッ
 カリして希望がなくなっただろうね。

だから、お弟子さんたちが復活のイエス様に
 出会えたときにはどんなにうれしかったか、そ
 してたくさん希望がもてたか！と思うんだ。

そんな希望と喜びが、お弟子さんたちの「イ
 エス様のことを伝えたい」力になって、世界に
 ひろがっていったんだね。

祈り 天のお父様、復活のイエス様がたくさん
 の人に力を与えたことを知ることがで
 き、ありがとうございます。

7月24日（水）

聖書

I コリント 15・6

聖句

その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。6節

「キリスト教は、お弟子さんがイエス様の死んだ体^{からだ}をかくして、よみがえったって作り話を^{はなし}をしているんだよ」って言う人がいます。

イエス様が復活したときもそう。イエス様が殺した人たちはそんなうわさをユダヤ中に流したんだ。でもどうだろう？ なんと500人以上のイエス様を信じる人たちにも、復活のイエス様は会ってくださっていたんだね。

人のわるいウワサが、あなたのまわりにもあるかもしれないけど、神様はそれを放っておかれるお方ではないよ。イエス様のときのように、「神様の知恵はなによりもかしこい」ことをあなたもきっと体験できるからね！

祈り

天のお父様、この日も、あなたの不思議な知恵でわたしをお守りください。

7月25日（木）

聖書

I コリント 15・7

聖句

その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。7節

ヤコブというのは、イエス様の弟^{おとうと}で、マリヤとヨセフの子どものこと。「神のひとり子、救い主？ そんなバカな。お兄ちゃん頭おかしいぜ？」そう思っても仕方ないかもしれないね。ところが、ヤコブはこの後、復活のイエス様を見て信じ、教会のリーダーになったんだ。

「神の子」になったあなたのことを信じてくれない人がいるかもしれないね、でも、あなたの心にイエス様がいて生き方がかわるときに、あなたを見て、こんな風に変えられていく人がきっとたくさんいるよ。

祈り

天のお父様、イエス様の家族が変えられたように、わたしのまわりのひとにもイエス様を信じることができますように。

7月26日（金）

聖書

I コリント 15・8

聖句

最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。8節

コリントの手紙を書いたパウロは、なんとイエス様を信じる人を捕まえてはこらしめていた人でした。イエス様の十字架や復活も直接は見えていなかったし、熱心なユダヤ教徒だったから、イエス様を信じる人が赦せなかったんだ。でもあるとき、イエス様に直接、天から声をかけられる不思議な体験をして、イエス様を伝える人に生まれ変わったんだ。

ぜったいイエス様を信じないだろうな…と思うような人も、イエス様と出会うときに人生がこんなにも変わるんだね！ すごいね！

祈り

天のお父様、今はイエス様を嫌っている人にも、イエス様がどうか語りかけ、生まれ変わらせてください。

7月27日（土）

聖書

I コリント 15・3

聖句

最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって… 3節

一週間、復活のイエス様に出会った人のことを聞いてみてどう思いましたか？

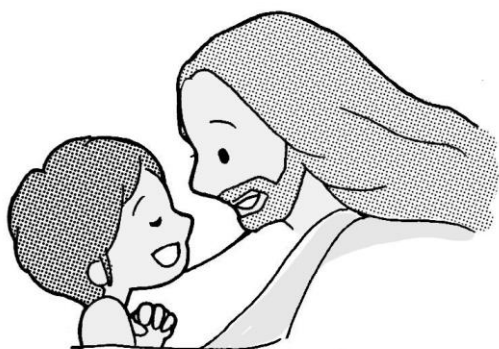
パウロが「私も受けた」と言うように、今日は「あなた自身」がどうかを考えてみてください。

イエス様の時代に、十字架や、死んで葬られ、よみがえったことを見ることはできなかったとしても「信じます」と言うときに、あなたもイエス様の復活を見、信じた人と同じだって、聖書は教えてくれているよ。

イエス様の復活の力をいただいて、毎日をすごせますように！

祈り

天のお父様、イエス様の十字架と復活をわたしのこととして、信じます。



聖書 マルコ 9・14～29
 テー マ 不信仰を取り除く
 暗唱聖句 できるなら、と言うのですか。信
 目 標 じる者には、どんなことでもでき
 るのです。 マルコ 9・23
 全能の主に対する信仰を持って
 祈る者となる。

7月28日（日）

聖書 マルコ 9・14～29
 聖句 できるなら、と言うのですか。信
 者には、どんなことでもできるのです。
 23節

「あれもできない、これもできない」、「あの人にはたのんでもダメ、この人にお願ひしてもやっぱりダメ」というような時があると、「どうしよう？」という事になりますね。ここに出てくるお父さんがそうでした。かわいそうな息子のために、自分も何もしてやれないし、イエス様のお弟子さんたちにお願ひしてもダメだったのです。ところが、ただお一人（！）できるお方とお出会いしました。全能の主—そう、何でもおできになるイエス様でしたよ。

祈り 天のお父様、何でもおできになるイエス
 様を信じる者には、どんな事でもできる
 ことを知り、本当に感謝です。

7月29日（月）

聖書 マルコ 9・14～18
 聖句 それでああなたのお弟子たちに、霊を
 追い出してくださいとお願ひしたの
 ですが、できませんでした。 18節

かわいそうなこの息子さんは、この時、何才だったのでしょうか？ 小さい時から、物が言えなくなる霊にとりつかれると、どこであつても引き倒され、あわを吹き、歯をくいしばって、からだをこわばらせてしまっていたということです。お父さんは、「あ、イエス様のお弟子さんたちだ、お願ひです、この霊を追い出してください」と頼みました。でも、イエス様のお弟子さんたちだって、できなかったのです。お弟子さんたちは恥ずかしかったかな？

祈り 天のお父様、いくらイエス様のお弟子だとい
 ってもできないことがあるのがわかりま
 した。心から同情します。

7月30日（火）

聖書 マルコ 9・19
 聖句 その子をわたしのところに連れて来
 なさい。 19節

そのお父さんの言葉を聞かれたイエス様は、とても嘆いて言われました。「ああ、不信仰な時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならないのか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」と。イエス様は「不信仰」をお嫌いになるのですね。「信じてほしい」と願っておられるのです。「その子をわたしのところに連れて来なさい」。これが、いつでもどんな時でも一番にすべきことなのです。

祈り 天のお父様、わたしたちにはとても無理
 と思える時、そのことをお祈りしてイエ
 ス様のところにもっていきます。

7月31日（水）

聖書 マルコ 9・20～22

聖句 しかし、おできになるなら、私たちをあわれんでお助けください。22節

人々がその子をイエス様のみもとに連れてくると、大変なことになりました。その子の内にとりついていてた霊がイエス様だとわかると、急にその子をひきつけさせたのです。その子はバタッと倒れ、あわを吹きながらころげまわりました。「いつごろからこんなになったのだ？」

とイエス様に尋ねられ、「幼い時からです。霊はこの子を、たびたび火の中、水の中に投げ入れて殺そうとしました。できますれば、わたしどもをあわれんでお助けください」と父は答えました。

祈り 天のお父様、こんなにもひどい状況だからと、おそろおそろお願いする父親の気持ちが、本当によくわかります。

8月1日（木）

聖書 マルコ 9・23～24

聖句 信じます。不信仰な私をお助けください。24節

「おできになるなら」という父親の言葉を聞いて、イエス様は、力強く言われました。「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」と！その子の父親の心に、このイエス様のお言葉がビーンとひびきました。父親はすぐ（！）叫んで言ったのです。「信じます。不信仰な私をお助けください」とね。「信じなければ、この子は助からない、どうぞわたしの不信仰を取り除いてください、信じます、助けてください」と心から叫んだのです。

祈り 天のお父様、この子が助かるかどうかは父の信仰にかかっています。わたしも他の人々のために信じていきます。

8月2日（金）

聖書 マルコ 9・25～27

聖句 イエスが手を取って起こされると、その子は立ち上がった。27節

「汚れた霊よ、わたしはおまえに命じる。この子から出て行け！二度とこの子に入らな！」と、イエス様は汚れた霊をしかって言われました。すると霊は叫び声をあげ、またその子を激しく引きつけさせて、ついに出て行ったのです。死人のようになったその子を見て、多くの人は死んだのだと言いましたが、なんと、イエス様がその子の手を取って起こされると、その子は立ち上がったではありませんか！父親はきつとうれし涙を流したことでしょう。

祈り 天のお父様、信じる者には、どんな事でもできるのだということがよくわかり励まされます。信じつづけます。

8月3日（土）

聖書 マルコ 9・28～29

聖句 この種のものは、祈りによらなければ、何によっても追い出すことができません。29節

初めから終わりまで、ずっとそばで見ていたお弟子さんたちは、イエス様といっしょに家にはいつてから、こっそりとイエス様にお尋ねしました。「私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか？」とね。イエス様の返事は、「この種のものは、祈りによらなければ、何によっても追い出すことができません」ということでした。「お祈りの力がどんなに大切で、ききめがあるかということを、もっともっと知らなければならぬんだな」と弟子たちは思ったことでしょう。

祈り 天のお父様、あなたの全能の力、何でもおできになる力をあらわしていただけるような信仰と祈りを求めます。



聖書 マルコ 1・14～15
 テー マ 神の国の福音
 暗唱聖句 時が満ち、神の国が近づいた。悔
 い改めて福音を信じなさい。

マルコ 1・15
 目 標 悔い改めと信仰により救いを
 頂く。

8月4日（日）

聖書 マルコ 1・14～15
 聖句 悔い改めて福音を信じなさい。

15節

今日から、「キリストの教え」について学びま
 す。イエス様が30歳になられて神の国の福音を
 伝え始められました。「時が満ち、神の国が近づ
 いた。悔い改めて福音を信じなさい。」と。あ
 なたは人が死ぬとどうなるか、どこへ行くのか、
 知っていますか？ 重大問題ですね。イエス様は
 神の国を伝えに来てくださいました。神様の前
 に罪をおわびして、イエス様の十字架の身代わ
 りを信じて、罪をゆるしてもらって神の国に入
 れるのです。死んだ後も永遠に。

祈り 天のお父様、永遠の神の国に入れる道を
 備えて下さり感謝します。悔い改めてイ
 エス様を信じて入りたいです。

8月5日（月）

聖書 マタイ 7・13～14
 聖句 狭い門から入りなさい。滅びに至る
 門は大きく、その道は広く、そこか
 ら入って行く者が多いのです。13節

「赤信号、みんなで渡ればこわくない」。こ
 の考えは滅びにつながる広い道で、大きな門で
 す。みんながやってるから、と罪を犯し続けて
 いれば、広い滅びへの道を歩いているのです。
 そんな人が多いとイエス様も言われます。でも
 「狭い門から入りなさい」と招いておられます。
 それはどんな門かといえば悔い改めの門です。
 そしてそれは命にいたる大切な門です。命に
 いたる道は細いので歩くのも困難です。自分
 ひとりやっと歩けるくらいかもしれません。

祈り 天のお父様、狭い悔い改めの門を通り、細
 い道、命の道がどの道であるかを知って、
 しっかり歩ませてください。

8月6日（火）

聖書 I ヨハネ 1・5～10
 聖句 もし私たちが自分の罪を告白するなら、
 神は真実で正しい方ですから、その罪を
 赦し、私たちをすべての不義からきよめ
 てくださいます。9節

悔い改めを、きちんとすることはとても大切
 です。それは、自分の罪を告白することです。そ
 れによって、自分がどんなに罪深い人間である
 のかが、ハッキリとわからせてもらえるからで
 す。そしてそんな私の罪を悲しんで、身代わり
 に十字架に死んでくださった救い主イエス様を
 仰ぐことです。それによって、「子よ、しっかりし
 なさい。あなたの罪は赦された」と、真実な神様
 から罪の赦しを宣言していただけます。

祈り 天のお父様、悔い改めることは恥ずかしい
 狭い門ですが、しっかり悔い改めて、赦して
 いただけますよう助けてください。

8月7日（水）

聖書 I コリント 15・1～8
聖句 この福音によって救われます。

2節

パウロ先生が伝えた「この福音」によって「救われます」と、力強く記しています。パウロ先生が最も大切なこととしてコリントの人々に伝えたのは、自分自身も受けたことだったと言います。それは聖書に書かれてあるとおり、キリストが私たちの罪のために死んだこと、葬られたこと、3日目によみがえったこと、そして現れてくださったことだと言っています。そうです。イエス様の十字架と復活ですね。あなたもこの福音を信じていますか？

いの祈り 天のお父様、イエス様の十字架と復活の福音こそ、すべてのすべてです。信じる人が救われることを感謝します。

8月8日（木）

聖書 ローマ 1・16～17
聖句 私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。

16節

「イエス様のことや教会のこととか、お友達には恥ずかしくて言えないな」と思いますか？ とんでもない！ と返事をするのはパウロ先生です。「わたしは福音を恥としません」。イエス様のすばらしい救いのグッド・ニュースです。ニュースはどんどん伝えるべきです。しかもこの福音、このグッド・ニュースとえば、これを信じるならば救われるというのですから！ ユダヤ人、ギリシア人、全世界の人々の救いの福音です。

いの祈り 天のお父様、本当に福音の力の大きいことを思います。多くの人の人生を変えてきたこの福音を伝えたいです。

8月9日（金）

聖書 エペソ 2・1～10
聖句 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。

8節

私たちはみんなオギャーと生れたままだったら、罪の中に死んでいる者です。自分で自分を罪から救えないし、罪深い自分を変えることもできません。神様はそんな私たちをかわいそうに思ってください、イエス様をおつかわしくださって、滅びの川から救い上げてくださいました。ただ一方的な神様の大きな愛とあわれみと恵みによって。その救い主イエス様をただ信じて、イエス様と共によみがえらせていただいたのです。感謝あるのみ。

いの祈り 天のお父様、あなたの変わらない愛とあわれみと恵みを感謝します。信仰によって救われました。信じ続けます。

8月10日（土）

聖書 II テモテ 2・1～8
聖句 イエス・キリストのことを心に留めていなさい。私が伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえった方です。

8節

あなたはよくお手紙を書きますか？ もし、今から書く手紙が、地上での最後のお手紙だとしたら、何を書くでしょう？！ パウロ先生が地上最後のお手紙を、愛する息子のような弟子のテモテに書きました。「イエス・キリストをいつも思っていていなさい。これがわたしの福音である」でした！ テモテはしっかり心に刻んで、いつも、何をする時も、イエス様のことを思っていたことでしょう。私たちもそうしたいですね。

いの祈り 天のお父様、毎日いろいろなできごとがありますが、いつもイエス様のことを思っていることができますように。



聖書 ルカ 7・36～50
 テーマ 罪赦された者として
 暗唱聖句 この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。
 ルカ 7・47

目標 おお 多くの罪を赦された者として、キリストを愛して生きる。

8月11日（日）

聖書 ルカ 7・47
 聖句 この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。 47節

あなたは、自分が受けなければならない罪の罰を、イエス様がぜんぶせおって受けてくださったと知ったとき、どんな気もちでしたか？

この「罪の女」とよばれていた人はきっと、「イエス様がわたしの救い主！」とはっきりわかって、うれしくて、いても立ってもいられなくなり、自分にできるせいっぱいのことを、イエス様におさげしたいと思ったんだね。

わたしたちも「赦されてよかったね」で終わるのではなく、自分にできるせいっぱいの感謝の気もちを、イエス様におさげしよう！

祈り 天のお父様、赦されたよろこびと感謝を、せいっぱいあなたに表します！

8月12日（月）

聖書 ルカ 7・36
 聖句 あるパリサイ人が一緒に食事をした
 いとイエスを招いた… 36節

ユダヤでは、先生とよばれる人をまねくことは良い行いで、いっしょに食事をしながらみんなで話を聞くといいことがよくありました。中には、良い行いをしている自分を見てもらいたいと思う人もいたみたい。

このときは、パリサイ人がイエス様をまねきました。でも、パリサイ人はイエス様のことをいつも悪く言う人たちです。

イエス様は、ご自分が試される所であっても喜んで行き、神様のことを伝えました。神様のことを思っておられたんだね。

祈り 天のお父様、自分のことばかりではなく、あなたのことを思っすごせすように。

8月13日（火）

聖書 ルカ 7・37～38
 聖句 泣きながらイエスの足を涙でぬらし始め、髪の毛でぬぐい、その足に口づけして香油を塗った。 38節

もし、あなたの近くに救い主イエス様がいたらどうするかなあ？

イエス様は聖くて、わたしは汚れている。イエス様にふれることも、近づくこともできないんじゃないか、と思う人もいるかもしれないね。

でも、この「罪の女」とよばれていた人を見て！ イエス様を信じるなら、だれから「罪人」とよばれていても、イエス様だけはやさしく受け入れてくださり、味方になってくださり、友となってくださるとわかるね！

祈り 天のお父様、こんなわたしでも、受け入れてくださり、友となってくださるイエス様に感謝します。

8月14日（水）

聖書 ルカ 7・39

聖句 この女は罪深いのだから 39節

パリサイ人は、ユダヤ人の中でも、神様の教えをキッチリ守ろうとしていた人たちです。だからよけいに、神様の教えを守らない人や罪人と言われる人、汚れたものにさわると、自分も汚れると思ってきらっていたのです。

外側のことばかり気にしている間に、じつは罪や汚れが、「自分の心の中から出てくる」ということが分からなくなっていたんだね。行いは正しくても、愛がなければ神様の前には意味がないんだよね。

本当に清くされなければならなかったのは、このパリサイ人だったんだね。

祈り 天のお父様、行いや、外側の清さばかりを気にするのではなく、心の中の清さを気にして生きていけますように。

8月15日（木）

聖書 ルカ 7・40～42

聖句 彼らは返すことができなかったのに、金貸しは二人とも借金を帳消しにしてやった。 42節

このたとえ話の中で大切なことは、借りたお金が小さかろうが大きかろうが、どうやっても返せなかったことと、返せないはずのものが帳消しにされたっていうことだよ。

そして、これは罪のお話なんだ。どんな小さな罪でも、イエス様を信じるまでは、神様の子どもになれないわたしたち。それが赦される！罪をおかしたこともないものとされる！ということをおどくくらいふかく感じているだろう？

「罪が赦される」ということはすごいことだね！ イエス様、ありがとうございます！

祈り 天のお父様、罪が赦されたことの大きさを、ふかく感じて、わすれることがありませんように。

8月16日（金）

聖書 ルカ 7・44～47

聖句 赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。 47節

人に助けられたり、してもらったときは「ありがとう」って言うよね？そして、その人のことがすごく好きになっておかえしたいし、役に立ちたいって思うよね。

これは罪が赦された人のしぜんな変化。神様をよろこばせたい、イエス様の役に立ちたいって気持ちで、毎日を過ごすようになるよ。

良いことをするから神様に愛されるんじゃない、神様がまずわたしたちを愛しておられることを知ろう。そして、こんどは、あなたが、だれかを愛し、赦していく人になろうね。

祈り 天のお父様、まずあなたが愛し、赦してください。感謝します。わたしも、あなたと人を愛する子どもとしてください。

8月17日（土）

聖書 ルカ 7・48～50

聖句 罪を赦すことさえするこの人は、いったいだれなのか。 49節

世界には、神様がいるとは信じていても、どうしてイエス様が救い主じゃないといけなにかわらない人たちがたくさんいるんだ。

そんな人たちの目から見れば、イエス様を「いったいだれなんだ」と思うよね。

でも、自分の罪のこと、神様の愛のこと、イエス様の十字架のことを知れば知るほど、イエス様じゃなきゃだめなんだって、わかるね。

どうか、先に知ったあなたから、まだ知らない人たちへ、イエス様のことを伝えていってくださいね。

祈り 天のお父様、イエス様がだれなのか分からない人に、少しでもその意味を伝えていけますように。



聖書 ルカ 8・22～39
 テーマ レギオンからの解放
 暗唱聖句 あなたの家に帰って、神があなたにしてくださったことをすべて、話して聞かせなさい。

ルカ 8・39

目標 キリストによる解放を体験し、証しする者となる。

8月18日（日）

聖書 ルカ 8・39
 聖句 あなたの家に帰って、神があなたにしてくださったことをすべて、話して聞かせなさい。 39節

神様のことを伝えるって、教会の先生にしかできないことだと思いますか？ イエス様はね、「神様があなたにしてくださったすべて、あなたが伝えるんだよ」と言います。

それは特別に、もっと神様のことをくわしく知ってからとか、いつか教会の先生になってからとかではなくて、今、あなたがいる場所で、家族や、お友だちにお話するってこと！

今日、あなたはどんなすばらしいことを体験しましたか？ 神様に感謝したことはありますか？ それをみんなに話せるあなたでいてね。

祈り 天のお父様、今自分のいる場所で、あなたのしてくださったことを教えてあげられる人になれるように。

8月19日（月）

聖書 ルカ 8・26～29
 聖句 悪霊につかれている男…彼は長い間、服を身に着けず、家に住まないで墓場に住んでいた。 27節

悪霊ってね、悪魔に仕える霊のことなんだけど、イエス様の時代は、イエス様のお働きをじゃまする悪霊が、きつとたくさん集まってきたんじゃないかな。ここで悪霊につかれた人は、もう人間らしいとは言えないようなすがたにされてしまってるよね。かわいそう…。

ゲラサというのは、本当の神様ではない偶像の神を拝んでいた場所。真の神様のいない場所では、悪霊の働きは強いんだね。

たくさんの偶像がいる日本で、真の神を信じて生きるって、すごい守りだってことだね！

祈り 天のお父様、悪霊が働きやすい偶像の多い国の中でも、真の神様であるあなたを信じて生きていけますように。

8月20日（火）

聖書 ルカ 8・28
 聖句 いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係があるのですか。お願いです。私を苦しめないでください。 28節

イエス様がいったいどんなお方なのか説明なしによくよく知っている…それは神さまだけでなく、悪霊もです。

悪霊は、イエス様がどんなお方で、どんな力を持っているか、イエス様に会うと自分がどうなってしまうか、よく知っているのです。

わたしたちを「友」と呼んでいつもいっしょにいてくださるイエス様。あなたを苦しめる悪霊から守ってくださらないはずがないよ！

祈り 天のお父様、この日も、イエス様がいっしょにいて、すべての悪いものからお守りください。

8月21日（水）

聖書 ルカ 8・29

聖句 イエスが汚れた^{けが}霊^{れい}に、この人^{ひと}から出て行くように命^{めい}じられたからであった。^{せつ} 29節

人の心^{ひと こころ}を汚^{けが}すものってなんだろう？ たとえば、自分勝手^{じぶん かつて}にしたい^{こころ}なる心^{こころ}、いじわるや、うそや、悪い^{わる}思いが心^{こころ}にあるとき、神様^{かみさま}じゃなくて占^{うらな}いやおまじないなんか心^{こころ}をひかれて^{かみさま}いるとき、神様^{かみさま}を知^しっているはず、神様^{かみさま}に喜^{よろこ}ばれることがなんなのかわかつてるはずなのに、なんで自分の力^{ちから}やがんばり^{きたな}で汚^{けが}いものをなくせないんだろう？

そう、だからこそ、イエス様^{イエスさま}が必要^{ひつよう}なんだよね。イエス様^{イエスさま}はお言葉^{ことば}一つで、悪霊^{あくれい}にも命^{めい}じることができる^{かた}お方^{さま}。イエス様^{イエスさま}にさけぼう！

祈り ^{てん}天のお父様^{とうさま}、わたし^{こころ}の心^{けが}を汚^{けが}すものがあります。イエス様^{イエスさま}！助^{たす}けてください！

8月22日（木）

聖書 ルカ 8・30

聖句 悪霊^{あくれい}が大勢^{おおぜい}彼^{かれ}に入^{はい}っていたからである。^{せつ} 30節

レギオンっていうのはローマの軍隊^{ぐんたい}の名前^{なまえ}で 6000人^{にん}いたんだって！ そんな力^{ちから}に、たったひとり^{ひと}で勝^かてっこないよね！！ そんなふうにして、悪霊^{あくれい}はこの人^{ひと}を苦^{くる}しめていたんだね。

でもね、人を神様^{かみさま}から引き離^{はな}そうとするものって、あなたのまわりにもきつとたくさんあるんじゃない？ すべてが悪霊^{あくれい}の働^{はたら}きと言^いえないかもしれないけれど、悪霊^{あくれい}はあの手^てこの手^てで、神様^{かみさま}を信^{しん}じることができないようにわなをしかけていると思うんだ。

それを感じるとき「いつも神様^{かみさま}といっしょにいるほう」をえらべるあなたでいてください。

祈り ^{てん}天のお父様^{とうさま}、あなたから引きはなす^ひ力^{ちから}がきたとき、あなたといっしょにいることをえらべますように助^{たす}けてください。

8月23日（金）

聖書 ルカ 8・31~33

聖句 悪霊^{あくれい}どもは、その豚^{ぶた}に入^{はい}ることを許^{ゆる}してくださいと懇願^{こんがん}した。イエスはそれを許^{ゆる}された。^{せつ} 32節

底知^{そこし}れぬ所^{ところ}っていうのは、悪霊^{あくれい}が行^いく地獄^{じごく}のような所^{ところ}で、そこには苦^{くる}しいことが待^{まち}っているみたい。悪霊^{あくれい}はそんな場所^{ばしょ}に行くよりは、豚^{ぶた}の中^{なか}に行^いくほうがましだと言^いったんだね。けっきょく、悪霊^{あくれい}が豚^{ぶた}に入^{はい}ったとたん^{みずうみ}に、湖^{うみ}の中^{なか}でおぼれ死^しんでしまったんだね。

このときに悪霊^{あくれい}も滅^{ほろ}ぼされたかはわからないけど、悪霊^{あくれい}に良い行き場^いはなく、やがては完全^{かんぜん}に滅^{ほろ}ぼされる日^ひがくることを知^しってね！

祈り ^{てん}天のお父様^{とうさま}、悪霊^{あくれい}が豚^{ぶた}をえらんでもけっきょく行き場^いがなくなったように、やがてはあなたが滅^{ほろ}ぼされることを知^しることができ、ありがとうございます。

8月24日（土）

聖書 ルカ 8・34~37

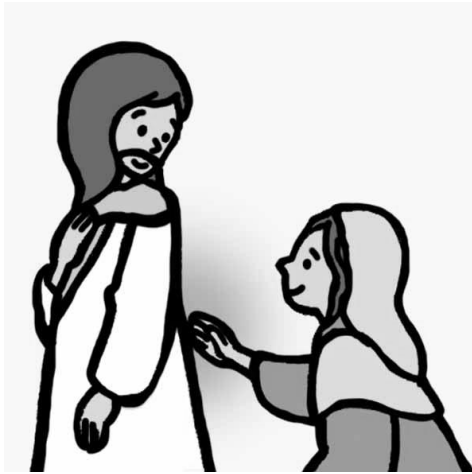
聖句 ゲラサ周^{しゅう}辺^{へん}の人々^{ひと}はみな、イエスに、自分^{じぶん}たちのところから出^でて行^いってほしいと願^{ねが}った。^{せつ} 37節

神様^{かみさま}を知らない人^{ひと}が見^みたら、ひとり^{ひと}の人^{ひと}が悪霊^{あくれい}から解放^{かいほう}されたことよりも、豚^{ぶた}がたくさん死^しんだことのほうがショックだったんだね。

神様^{かみさま}を知らない人^{ひと}と知^しっている人^{ひと}では、ものごとの見^み方^{かた}がずいぶんちがうなあ、と思^{おも}いませんか？ 神様^{かみさま}はすばらしいことをしてくださっているのに、それを感謝^{かんしゃ}できないだけでなく、おびえたり、おいだすなんてね…。

神様^{かみさま}はなによりも、人^{ひと}が救^{すく}われることをたいせつ^{せつ}にしておられること、知^しってくださいね。

祈り ^{てん}天のお父様^{とうさま}、なによりも人^{ひと}が一人^{ひとり}、あなたの救^{すく}いを体験^{たいけん}できたことを喜^{よろこ}び感謝^{かんしゃ}する心^{こころ}を持^もてますように。



聖書 ルカ 8・43～48
 テーマ 長血の女の癒し
 暗唱聖句 娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。 ルカ 8・48

目標 信仰によってキリストのみわざに与る者となる。

8月25日（日）

聖書 ルカ 8・48
 聖句 娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。
 48節

イエス様に、こんなふうにはめてもらえたらどんなにうれしいだろうなあ！でも、イエス様にほめられるようなこと、自分になんてあったっけ…。いえいえ、イエス様はね、あなたがなにかすばらしいことをしたからとか、教会の先生たちのようなお祈りができるから、「すごいね」って言ったんじゃないんだ。

わからないこと、不安なことがたくさんある毎日の中で「イエス様！助けて！」と言える、今のあなたの小さくて、でもせいいっぱいの信仰を受け入れ、ほめてくださるんだよ！

祈り 天のお父様、小さなわたしの信仰でもたいていつにしてくださるイエス様に感謝します。

8月26日（月）

聖書 ルカ 8・43
 聖句 医者たちに財産すべてを費やしたのに、だれにも治してもらえなかった女の人があった。 43節

病気をしたら病院に行って治してもらおうよね？この時代、病気であることはなにかの罪が原因だと思われていたし、病気の人は汚れているから、さわったり近づいたりしてはいけないと教えられていたんだ。病気が長引けば長引くほど、体だけではなく、心も傷ついて、この女の人、苦しいつらい思いをしたらうね。

あなたのまわりにも、だれからも相手にしてもらえない人、苦しんだり傷ついたりしてる人はいませんか？それが、イエス様と出会う時、イエス様がどんなお方か知る時だよ。

祈り 天のお父様、体も心も傷ついた人が、イエス様と出会うことができますように。

8月27日（火）

聖書 ルカ 8・44
 聖句 彼女はイエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。すると、ただちに出血が止まった。 44節

このとき、イエス様の人気はすごいもので、まるで芸能人を追いかけるファンのように人がついてくるのでした。ということは、病気の女の人、イエス様に近づくななんて命がけ！

そして、とうとう追いついたイエス様の衣のすそをさわったとたん、いままでどうしようもなかった病気が治ってしまったのです！！

イエス様の衣に力があつたから？いいえ。イエス様をただ心から信じて手をのばした、その信仰を、神様は見えておられたからだよね！

祈り 天のお父様、わたしも信仰の手をのばして、イエス様に近づけますように。

8月28日（水）

聖書 ルカ 8・45～46

聖句 わたしにさわったのは、だれですか。
45節

イエス様、怒ってるのかなあ？ いえいえ。

このとき、たくさんの人がぎゅうぎゅうにイエス様のまわりでおしくらまんじゅうしていたのに、イエス様はたった一人の人が気になっていたのです。

なんで一人だけ気になったのかって？ きつと、ぎゅうぎゅうづめの人とイエス様にさわった女の人に、なにかちがうものがあつたからだよ。だとしたらそれは、信仰！

たくさんのおんなのなかに、キラッと光るような信仰を、イエス様は見のがさないで「だれか？」と言って見つけ出してくださるんだね。

祈り 天のお父様、どんな場所でも、どんな時でも、イエス様はその信仰を心にとめてくださることをありがとうございます。

8月29日（木）

聖書 ルカ 8・46

聖句 わたし自身、自分から力が出て行くのを感じました。
46節

力が出て行ったなんて、イエス様もパワーがなくなるときがあるの？ それとも汚れた人がさわったからイエス様も汚れちゃったの？

そんなことはありません。だって、イエス様はこのあとすぐに、亡くなった女の子を生き返らせるくらい力のあることをしてるからね。

それどころか、イエス様は全世界の人のために十字架にかかって、永遠の命を約束してくださったでしょう。

イエス様のところに信仰をもってくる人には、神様は大きくて、ぜったいなくなるらない力を、いつでも豊かに流してくださること、知っていてください。

祈り 天のお父様、あなたの力は永遠に豊かであることを信じます。

8月30日（金）

聖書 ルカ 8・47

聖句 震えながら進み出て御前にひれ伏し、イエスにさわった理由と、ただちに癒やされた次第を、すべての民の前で話した。
47節

12年もの間、「汚れている」と言われて、だけれども見捨てられて生きてきた女の人には、みんなの前でお話することがどれくらい勇気がいるか、想像できるかな？

でも、そんな人生はもう終わって、新しい、きよい体と人生が始まったことを、みんなに知らせてほしい、それがイエス様の願いだよ。それが分かるためには、勇気を出して、みんなにわかるように、お話するんだね。

あなたもそうであってほしいと、イエス様は願っておられるんだよ！

祈り 天のお父様、新しい命をもらったことをみんなに話せる勇気をください。

8月31日（土）

聖書 ルカ 8・48

聖句 娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。
48節

病気の女の方は、ただ自分の病気だけ治ればいいと思っていたのかな？ だとしたら、治ったあとも、生活になんの変わりもなかったかも。だから、今の生活も、人間関係も、罪人と呼ばれることも、すべて解決したかったはず。

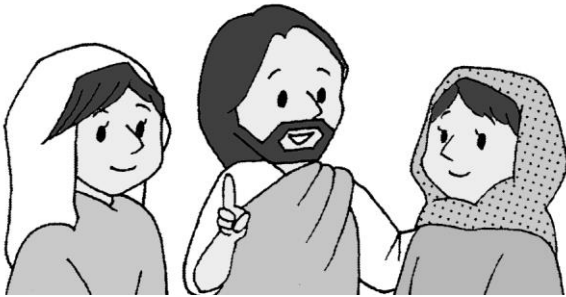
そして、すべて解決して、新しい人生をくださるのは、イエス様お一人しかいない！と信じていたから、こんなすごい体験ができたんだね。

あなたは、イエス様が、あなたの人生を変えてくださることをどれくらい信じてるかな？

この女の方のようなすばらしい体験、あなたもできますように！

祈り 天のお父様、わたしの人生がイエス様によって変えられますように。

ラリー・デイ



聖書 ルカ 10・38～42
テーマ マルタとマリア
暗唱聖句 しかし、必要なことは一つだけです。 ルカ 10・42
目標 人間にとってなくてはならないこととして、み言葉に聞く。

9月1日(日)

聖書 ルカ 10・38～42
聖句 必要なことは一つだけです。マリアはその良いほうを選びました。 42節

みことばによって、夏のだれた心と体でシャキッとさせていただきましたか？ さあ、いよいよ学校も始まりましたね。気持ちの良い秋になるから、あれもしたい、これもしたいといっぱい計画を立てていると……ハイ！ イエス様のみ声、「必要なことは一つだけです。」と。その必要なただ一つのこととは、ここに登場するマリアのように、しっかりとイエス様のみことばに聞くことなのです。

いの祈り 天のお父様、私にとっても、なくてはならない一番必要な、「みことばに聞く」ことができますようにと祈ります。

9月2日(月)

聖書 ルカ 10・38～39
聖句 彼女にはマリアという姉妹がいたが、主の足もとに座って、主のことばに聞き入っていた。 39節

教会学校にきて、お話を聞くのは大好きですか？ それとも、あんまりよく聞かないで、ゴソゴソ、そわそわしたり、隣のお友だちと、ヒソヒソ話したりしますか？ 「アレ？ きょうは、何のお話だったのかな？」なんてことになりませんように！ よろしく願いますよ。マルタという姉と、マリアという妹がいました。妹のマリアは、イエス様の足もとにすわりこんだのです。そして、イエス様の話られるみことばに聞き入っていたとあります。ならいたいね。

いの祈り 天のお父様、マリアがイエス様の足もとにすわって、みことばに聞き入っていたように、私もそうしたいです。

9月3日(火)

聖書 ルカ 10・40
聖句 主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。 40節

イエス様は話される、マリアはしっとり、じっくり、みことばに聞き入っています。そこに突然、姉マルタの声がします。イエス様に向かって、きょうの聖句を言います。それにおまけに、「私の手伝いをするように、おっしゃってください」って！ マルタはちっともみことばを聞かず、接待のことであまりに忙しくして、まさに、心を亡ぼしてしまい、心を取りみだしてしまっ、こうやってしまいました。あなたにもそんな時がないですか？

いの祈り 天のお父様、あまりにいろんなことで忙しくして、心が乱れてとんでもないことを言ったりしませんように。

9月4日（水）

聖書 ルカ 10・41

聖句 マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。 41節

心がイライラしているお友だちや、お家の人から、このマルタのようにガンガン言われたら、どうですか？「もう、頭にきちゃう、こっちまでイライラしてくる」なんてことになりかねませんね。ところが、いつも心おだやかなイエス様はマルタに静かに、けれどもはっきりと言われます。「マルタよ、あなたはあまりにたくさんのことに心を使いすぎているのだよ。心配のとりこになっているよ」とね。イエス様の目にはマルタの心が見えていたのです。

祈り 天のお父様、しなければいけないたくさんので、心が押しつぶされてしまわないように助けてください。

9月5日（木）

聖書 ルカ 10・42

聖句 それが彼女から取り上げられることはありません。 42節

「必要なことは一つだけです」とイエス様は言われます。それは、ちょうどマリアが、イエス様の足もとにすわって、みことばに聞き入っていたという、そのことなのです。マリアはその良い方、つまりなくてはならない必要な方を選びました。そしてそれは、彼女から取り上げられないものと、イエス様は言われます。「そうか、みことばに聞くことって、なくてはならないただ一つのこと、取り上げてはならない大切なものか」と納得しました？

祈り 天のお父様、自分がみことばに聞くだけでなく、まわりのお友だちもみことばに聞き入ることができるよう心を配ります。

9月6日（金）

聖書 ヨハネ 12・1～2

聖句 人々はイエスのために、そこに夕食を用意した。マルタは給仕し、…2節

ベタニア、そこはイエス様の愛されたマルタ、マリア、ラザロのいた所です。イエス様にとっては心休まるオアシスのような所でした。ここはまもなく、イエス様がとらえられ、十字架につけられるという時のことでした。死んだ弟のラザロをよみがえらせてくださったイエス様に、マルタもマリアも感激でいっぱいです。マルタはここでも夕食の接待をしていますね。でも『あの時』から心が変えられたのですね。自分ひとりでも喜んで主をもてなしました。

祈り 天のお父様、イエス様のみことばの力は、私たちの心を変えてくださいます。同じ事をしても新しい心でさせてください。

9月7日（土）

聖書 ヨハネ 12・3～11

聖句 家は香油の香りでいっぱいになった。 3節

さて、あの時、イエス様の足もとにすわって、みことばに聞き入っていたマリアはどうしたでしょう？「ああ、もうイエス様のために愛をお注ぎできる時は、今しかない！」と心に悟っていました。そこで、高価で、純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエス様の足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいたのです！フワッと、何とも言いえない香油のよいかがりが家中いっぱいになりました。イエス様はこのマリアの愛の心にどんなにか慰められたことでしょう。

祈り 天のお父様、イエス様のみことばに聞き入っていたから、マリアは時となすべき事がわかったのだと知りました。



聖書 ルカ 18・35～43
 テー マ 盲人のいやし
 暗唱聖句 わたしに何をしてほしいのですか。 ルカ 18・41

目標 願いを明確にして祈る者となる。

9月8日（日）

聖書 ルカ 18・41

聖句 わたしに何をしてほしいのですか。
 41節

お誕生日やクリスマス、ほしいものが目の前にあるとき、どうする？ なにも言わずにただじ～っと見つめるだけ？ ちがうよね！ちゃんと手をのばして、それをしっかり自分のものにしたい！「ほしい！ ください！」って言うんじゃないかな!?

じつは、信仰もそれと同じなんだ。神様があなたにとびきりのプレゼントを用意してくださっているから、手をのばして受け取ること、「ください」「ありがとう」って声に出して言うこと、それがとってもたいせつだよ。

神様に信仰のお祈り、できますように！

祈り 天のお父様、いつも、はっきりした信仰の手と口で、お祈りしていただけますように。

9月9日（月）

聖書 ルカ 18・35

聖句 イエスがエリコに近づいたとき、一人の目の見えない人が道端に座り、物乞いをしていた。 35節

ガリラヤのほうからエルサレムに向かって旅をしていたイエス様とお弟子さん。そのエルサレムの少し手前の町がエリコでした。ここには、バルサムという木で作る目薬を求めて、目の悪い人がたくさん集まっていたみたい。

この時代、目が見えないことは、仕事ができないということ。だから、人々が入り出す町の門のところにすわって、人からものをもらって生きていくしかありませんでした。

さびしい、悲しい、そんな人生。でも、そこにもすばらしいことが起こるって、知ってた？

祈り 天のお父様、どんな人生であっても、すばらしいことが起こること、ありがとうございます。

9月10日（火）

聖書 ルカ 18・36～38

聖句 彼は大声で、「ダビデの子のイエス様、私をあわれんでください」と言った。 38節

信じていないと言えない言葉ってあるよね。

「イエス様がわたしの救い主です」とか「あなたにたよるしか方法はありません」とか。

ここで目の見えない人が大声で叫んでいるのはそういう意味のことなんだ。

たくさんの人が「自分は持っている」「死んでも天国に行ける」「あなたに頼らなくても勝手に生きていけます」という時代の中で、わたしたちはどれくらい、イエス様にこんなふうに叫んだり、信じ続けたりできるだろうね…。

これはあなたへのチャレンジ！

祈り 天のお父様、この時代の中で、はっきりとした信仰を持ち続けることができますように。

9月11日（水）

聖書 ルカ 18・39

聖句 先を行く人たちが、黙らせようとしてたしなめたが、その人はますます激しく「ダビデの子よ、私をあわれんでください」と叫んだ。 39節

だれかに怒られたら、どんなふうになる？ 心がグシャッとつぶれたような、ポキッとおれたような感じで、元気をなくして、だまりこんじゃうかもしれないね。

さあ、どんなに怒られてもめげない、くじけない、つぶれないで叫び続けた、この人を見て！ 自分の救いと、命がかかっていることのためなら、人からどんなにじまされても、押さえつけられても、叫ぶことをやめなかったよ！ 信仰のたたかいでたいせつなことだね！

祈り 天のお父様、イエス様に近づくときにじまされても、負けない強い心をください。

9月12日（木）

聖書 ルカ 18・40

聖句 イエスは立ち止まって、彼を連れて来るように命じられた。 40節

イエス様がエルサレムに向かっていた理由、それは十字架につくためでした。そして、そのことをイエス様からはっきりと教えられていたのにぜんぜん理解できないお弟子さんたち。それは、目の前にいる盲人のように、心の目がくもって見えなかったからです。

イエス様は、ご自分が十字架にかかるために向かう道の途中で、信仰のある盲人と、信仰のないお弟子さんを出会わせて、その心の目を開こうとなさったのです。イエス様すごいね！

祈り 天のお父様、十字架に向かう中でも、たくさんのことを心にとめて、教えてくださったイエス様を感謝します。わたしの心の目も開いてください。

9月13日（金）

聖書 ルカ 18・42

聖句 見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救いました。 42節

この盲人の目を、イエス様が治したのは、その人がかわいそうだったから？ あんまりしつこくうるさかったから？ いいえ。

今ある命がたいせつで、目に見えるものだけで何を信じるか決めているわたしたちだけど、「心の目が開いていて、ほんとうに必要なことが見えていること」が、もっとたいせつなことだね。

「イエス様でなきゃ救われない」「イエス様にたよるしか道がない」という“100パーセントイエス様”の信仰が、イエス様から力をもらうヒケツなんだね！

祈り 天のお父様、100パーセントイエス様の信仰で歩む人生を生きられますように。

9月14日（土）

聖書 ルカ 18・43

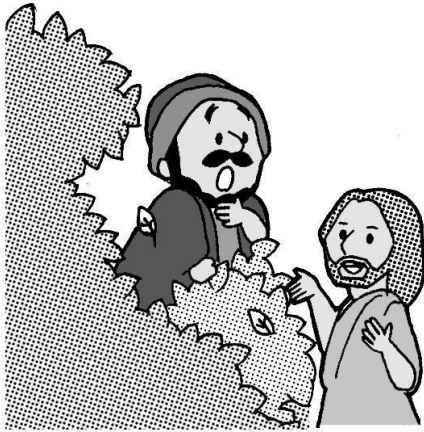
聖句 神をあがめながらイエスについて行った。これを見て、民はみな神を賛美した。 43節

目が見えるようになったら、今までできなかったこと、仕事して、結婚して、好きなこといろいろやる、そんなあたりまえのふつうの生活をしたい、そう思うよね？

でも、この男の人はちがったんだ。そんなことが目的じゃなかったんだ。そのしょうこに、イエス様がしてくれたことが、神様からの贈り物だって気づいていて、賛美しながらイエス様にぴったりついて行ったんだから。

そして、神様に変えられた喜びの姿は、まわりにいる人たちにも喜びを与えるんだね。

祈り 天のお父様、自分の生活をよくするために人生よりも、イエス様にしがうことを喜べる人生にしてください。



聖書 ルカ 19・1～10
 テーマ ザアカイ
 暗唱聖句 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。

目標 ルカ 19・10
 救い主キリストに出会い、キリストを心に迎え入れる。

9月15日（日）

聖書 ルカ 19・1～10
 聖句 人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。 10節

かわいいペットがいなくなって、必死で捜したことがあるでしょうか。「おーい！ 帰っておいでーフラフラしてたら死んじゃうよう」って。見つかった時はうれしかったでしょう。イエス様も、神様のもとから離れて、自分勝手に生きて、そのままと永遠に滅びてしまう私たちを見つけ出して、救うために来てくださいました。ここには、ひどいやり方で取税人のおかしらになったけど、とっても淋しかった、失われていたザアカイの救いの物語があります。

祈り 天のお父様、あなたのもとから離れ迷い出て失われている私たちを、尋ね出して救ってくださるイエス様を感謝します。

9月16日（月）

聖書 ルカ 19・1～2
 聖句 彼は取税人のかしらで、金持ちであった。 2節

あなたの名前には、どんな意味がこめられていますか？「ザアカイ」という名前は、日本語に言うと、「正くん」とか、「清くん」という、とても良い名前です。ところが、そんな名前にはふさわしくない生活をしていたのです。取税人とはローマの手先で、同じユダヤ人から税金を取るの、嫌われ者でした。どうして金持ちになれたか、わかるでしょう。そう、余分なお金を取りたてていたのです。正しくも清くもない、心さびしい人だったのですね。

祈り 天のお父様、よい地位と、たくさんの財産が幸せの条件ではないということが、ザアカイを見てよくわかります。

9月17日（火）

聖書 ルカ 19・3～4
 聖句 それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。 4節

みんなからのけ者のようにされていたザアカイには、もう一つ、くやしい気持ちがありました。「背が低かった」のです。つまり、人々からは「チビ」と言われて育ってきたのですね。それで、「よーし、今に見ている」と、取税人のかしらにまでなり、がっぽりお金をためていったのです。そのザアカイが、「イエス様を見たい！」と思ったのです。でも、人々が邪魔でとても見えません。ついにピンと来て、いちじく桑の木に登りました。しっかり見ようとしてね。

祈り 天のお父様、ザアカイの熱心な思いが伝わってきます。わたしも熱心に教会に通ってイエス様とお会いしたいです。

9月18日（水）

聖書 ルカ 19・5～7

聖句 ザアカイ、急いで降りて来なさい。
わたしは今日、あなたの家に泊まる
ことにしているから。 5節

「あっ、イエス様だ！」と、じっと見つめて
いると、ザアカイのいるすぐ下でピタッと止ま
られ、上を見あげて、言われます。「ザアカイ
よ」。「エエーッ!? 私のこと!?」 自分の名前
をちゃんと呼ばれて、（こんなこと全然なかつ
たかも）ザアカイは心臓がドキドキ！ 次の瞬
間、「急いで降りて来なさい。わたしは今日、
あなたの家に泊まることにしているから」。
「ヒューッ、今晚！ うちに？」 ザアカイはこ
ろがり落ちるように木からおりてイエス様を
迎えました。

祈り 天のお父様、ザアカイの破裂しそうな心臓
と、喜びでいっぱいの姿が目に浮かびます。
わたしも喜んでイエス様を迎えます。

9月19日（木）

聖書 ルカ 19・8

聖句 主よ、ご覧ください。私は財産の半
分を貧しい人たちに施します。 8節

だ一れも相手にしてくれないのに、イエス様
だけが、こんな私に声をかけ、家にまで来てく
ださったと思うと、ザアカイの心に光がさし
てきました。自分がやってきたいろんな悪いこ
とが見えてきたのです。「ああ、私はまちがっ
ていた。私もイエス様のように、きよく、正し
く、やさしくなりたい」と、ザアカイは心から
悔い改めて、180度方向転換しました。そして
罪のつぐないをするとイエス様に言いました。
財産の半分は貧民にほどこし、脅し取った物が
あれば四倍にして返しますと。

祈り 天のお父様、イエス様だけが、人の心に
働いて、変えてくださるお方です。イエ
ス様に近く生活できますように。

9月20日（金）

聖書 ルカ 19・9～10

聖句 今日、救いがこの家に来ました。この
人もアブラハムの子なのですから。 9節

「きょう、今！ 救いがこの家に来た」と、
イエス様は心から喜ばれました。ザアカイは、
イエス様を喜んで自分の家に迎え入れたと共
に、心の内にもしっかりと迎えしましたか
ら。きょう、あなたの心の中にもイエス様を
お迎えしましょう。きょう、あなたのお家にも、
イエス様をお迎えしましょう。「人の子」とは
イエス様のことです。このようにして、イエス
様は、「神様の前から失われている人を尋ね出
して救うために来ました」と言われます。

祈り 天のお父様、あなたを知らず、失われて
いた私たちを尋ね出して救うために、イ
エス様をつかわしてくださり感謝します。

9月21日（土）

聖書 マタイ 9・9～13

聖句 わたしが来たのは、正しい人を招くた
めではなく、罪人を招くためです。 13節

ここに、もう一人の取税人がいます。マタイ
という人です。イエス様は、この人にも、「わた
しについて来なさい」と声をかけられました。
すると彼はすぐに立ちあがって、イエス様に
従ったのでした。食事の時には、多くの取税人
や罪人たちがきて、イエス様や弟子たちと共に
席に着きます。パリサイ人たちが「どうしてこ
んな人たちと食事をするのか？」と言うのを聞
いて、「わたしは罪人を招くために来たのだ」と
言われます。何と感謝なことでしょう。

祈り 天のお父様、イエス様は本当に、天からの
「福音」、グッド・ニュースです。すべて
の人がイエス様と出会いますように。



聖書 ヨブ 1・1～22

テーマ ヨブ

暗唱聖句 【主】は与え、【主】は取られる。
【主】の御名はほむべきかな。

ヨブ 1・21

目 標 試練をも神のなさることとして
受け止め、神を賛美する者となる。

9月22日（日）

聖書 ヨブ 1・1～3

聖句 この人は誠実で直ぐな心を持ち、神
を恐れて悪から遠ざかっていた。

1節

今週はヨブという人のお話です。彼が生きた時代、彼が住む東の地方でいちばんのお金持ちでした。子どもは10人、しもべも大勢いました。羊やらくだなど、たくさんの家畜も飼っていました。

そんなお金持ちのヨブですが、お金を使いほうだいで、えらそうに生きていたわけではありません。神様を心から信じて、神様の前で正しく生きる人でした。ヨブほど正しい人は、ほかにいませんでした。罪を犯すことがないようにしよう！といつも思いながら歩んでいました。

祈り 天のお父様、ヨブの正しい信仰をとおりて、神様のみこころを教えてください。

9月23日（月）

聖書 ヨブ 1・4～5

聖句 ヨブは彼らと呼び寄せて聖別した。
朝早く起きて、彼ら一人ひとりのために、それぞれの全焼のささげ物を
献げたのである。 5節

ヨブの子どもたちには、自分の家がありました。「さあ、ごちそうを作ったから家に食べにきてよ！」「いいねえ、じゃあ今度はわたしの家でごちそうを食べよう！」「と、兄弟姉妹で招待しあって、楽しい生活を送っていました。

ヨブはそんな子どもたちを呼び、神様の前にささげ物を献げ、お祈りをしました。「もしかしら、子どもたちが罪を犯したかもしれない」と思ったからです。ヨブは、いつも家族のために祈る人でした。

祈り 天のお父様、わたしも、いつも家族のために祈りする人にならせてください。

9月24日（火）

聖書 ヨブ 1・6～12

聖句 彼はきっと、面と向かってあなたを
呪うに違いありません。 11節

正しいヨブに、サタンが目をつけました。サタンがこっそり神様の前に来たとき、神様はサタンに言われました。「ヨブのように正しい人はいないことに気づいたか」。するとサタンは言いました、「それはヨブがお金持ちだからです。財産がなくなれば、かならず神様の悪口を言いますよ！」。

そこまで言うサタンに、神様はヨブの財産を取りさることを許可しました。えっ!? と思うかもしれないけど、あえて神様は、ヨブが試練にあうことをゆるされたのです。

祈り 天のお父様、ヨブの財産を取りさることは、あなたの深いお考えがあったのだと信じます。

9月25日（水）

聖書 ヨブ 1・13～17
聖句 私一人だけが逃れて、あなたに知らせに参りました。 15節

サタンは、ヨブの財産や関わる人々にしのびよりしました。ヨブのしもべたちは殺されてしまい、家畜は焼きほろぼされ、盗まれてしまったのです！ヨブのしもべも財産もいっぺんになくなってしまいました！命からがら逃げてきたしもべが、そのようすを次々にヨブに話したのでした。ヨブにとって、どんなにショックな知らせだったことでしょう…。

わたしたちは、つらいことがおこるとなかなか受けとめられないですね。シクシク泣いてばかりで、立ちあがれない時があります。神様のなぐさめと励ましをひつようですね。

祈り 天のお父様、わたしはつらい時、なかなか立ちあがれません。あなたのなぐさめ、励ましを与えてください。

9月26日（木）

聖書 ヨブ 1・18～21
聖句 【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。 21節

ヨブに、いちばんつらいことがおきました。大きな風がふいて息子の家がつぶれて、中にいた10人の子どもたちが死んでしまったのです。ヨブは悲しみのどん底につき落とされてしまいました。

しかし、こんな悲しみのなかで彼はこう言いました。「わたしはなにも持たないで生まれました。そしてなにも持たずに死にます。すべては主が与えてくださり、主が取りさられます。主の御名をほめたたえます」。なんということでしょう。悲しみの中、ヨブから出てきたことばは、神様への心からの賛美でした。

祈り 天のお父様、わたしは悲しいときにあなたを賛美できるでしょうか。ヨブの信仰にならいたいです。

9月27日（金）

聖書 ヨブ 1・22
聖句 ヨブはこれらすべてのことにおいても、罪に陥ることなく、神に対して愚痴をこぼすようなことはしなかった。 22節

子どもたちも財産も、いっぺんに失い、つらすぎてたえられない状況のヨブ。それなのに、彼は神様に文句ひとつ言わず、神様を賛美しました。

サタンは、ヨブがつらい試練にあえば神様の悪口を言い、罪を犯すと思い、ヨブにかかわるすべてのものをうばいました。しかし、その悪だくみは大失敗に終わりました。ヨブはつらくても罪を犯しませんでした。彼の信仰は神様がみとめる、ほんものの信仰だったのです。

祈り 天のお父様、試練のとき、わたしが罪を犯さないように、わたしの信仰をお守りください。

9月28日（土）

聖書 ヨブ 1・1～22
聖句 【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。 21節

つらい試練のときは、ヨブの賛美を思いだしてみましよう。ヨブは、「自分に起こるすべてのことは神様が支配している、神様がなさることは、まちがいはない」と心から信じていたのです。ヨブは、いつも神様との時間をもっていたので、神様へのものすごい信頼があったんです。

神様との時間をまいにち持ちましよう。神様のすばらしさがわかって、ますます信頼できるようになります。神様がわたしにしてくださることにまちがいはない…！そう信頼して、良いときもつらい試練のときも、いつも神様を賛美したいですね。

祈り 天のお父様、あなたを信頼し、どんな時もあなたを賛美できる人にならせてください。



聖書 伝道12・1～14
テーマ 創造者を知る
暗唱聖句 あなたの若い日に、あなたの創造者を見えよ。
目標 伝道者の書12・1
造り主なる神を信じる生涯の幸を知る。

9月29日（日）

聖書 伝道 12・1～14
聖句 あなたの若い日に、あなたの創造者を見えよ。 1節

あなたにとって一番若い日は「今日！」ですね。「今日！」造り主である神様を、救い主であるイエスを信じていることができたなら最高だと思います。

これは今何才の人にも言えることですが、伝道者の書はまちがいない「若い日、若い日に創造者を信じることは、大切であり幸せなことです」と言っています。今教会へ来ているお友だちは本当に幸せな子どもたちですよ！造り主があなたのために計画されていることが行われ、神様のお働きのため長く用いていただけるのです。

祈り 天のお父さま、若い日にこのようにして、教会に来ることができて感謝します。あなたのためにお願いください。

9月30日（月）

聖書 伝道3・1～11
聖句 神のなさることは、すべて時にか
なって美しい。 11節

きれいなお花は、人々の心を明るくしてくれます。お花をつくってくださったのは神様です。その神様は、あなたの心も、お花のように美しい心にしてくださいます。美しいお花を見るたびに、創造者である神様を思い出しましょう。もう一つ美しいものがあります。それは神様の時です。伝道者の書には、いろんな時、いろんなタイミングが記されています。どんなことにもタイミングが大切です。あなたが若い日に神様を信じて救われ、そしてあなた自身を神様に献げるなら、それは最高に美しいことです。

祈り 天のお父さま、一番よい時に美しいことをなして下さるあなたに全てをおゆだねします。

10月1日（火）

聖書 伝道4・9～16
聖句 貧しくても知恵のある若者は、忠告を受け入れなくなった／年老いた愚かな王にまさる。 13節

どんなに立派な王様になっても、年を重ねるうちに愚かになって、よくないことをした者に対して何の忠告も警告もできないのは困ります。それに比べて、貧しいけれども賢い子どもの方がすぐれていると書かれています。私たちが賢い者にしてもらえるものは聖書のみ言葉です。だから小さい時から、字が読めるようになったらすぐたくさんのみ言葉に親しみ、覚えられとすばらしいですね。家庭礼拝や祈祷会でもしっかりみ言葉を読みましょう。

祈り 天のお父さま、小さい私ですが聖書をしっかり読んで、覚えられます。神様の知恵を心に満たしてください。

10月2日（水）

聖書 伝道9・9～10

聖句 あなたの手がなし得ると分かったことはすべて、自分の力でそれをせよ。
10節

このみ言葉は、わたしたちの信仰の霊の流れのもととなられたB・F・バックストン家の家訓のみ言葉です。バックストン家の子どもたちへの教育、霊育はすばらしいものでした。共に聖書を開き、その聖書にしるしをつけるのでした。A.P（アンサーズ・トウ・プレーヤー）（祈りの答え）とかLG（ラブ・オブ・ゴッド）（神の愛）など。朝食の時には、全員み言葉を一句ずつ暗唱しました。“力をつくしてなせ。”（口語訳）この家訓のもとに優秀な神の器たちが世界におくり出されました。

祈り 天のお父さま、家族みんないっしょに聖書を読み、お祈りをし、家族が神様のお役にたつようにしてください。

10月3日（木）

聖書 伝道11・1

聖句 あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出す。
1節

パンを水の上に投げるなんて、ほんとに全く無駄としか思えないようなことをやっていると思ってしまう。誰かのためのお祈りや、トラクト配布、手紙伝道など、神様のことを伝えようとするときに、そう思うかも知れませんね。水の上に投げられたパンは水の中にふやけてなくなっていくか、鳥か魚にパクリと食べられてしまうかです。でも聖書には、「ずっと後の日になって、あなたはそれを見出す。」と記されています。私たちはみ言葉を信じて伝道に励みましょう。

祈り 天のお父さま、ちょっと見ただけではムダのように見えることも、愛をこめてすることが出来ますように。

10月4日（金）

聖書 ガラテヤ6・6～8

聖句 御霊に蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。
8節

蒔くこと刈ることについて考えましょう。種まきをしたことありますか。楽しいですね。スイカの種を蒔けばスイカを収穫します。人は自分の蒔いたものを刈り取ることであります。肉に蒔くとは？ 自分の欲ばりの思いで日を過ごすことです。食べ過ぎていろんな病気になるように、肉に蒔く者は肉から滅びを刈り取ります。霊に蒔く者は？ 霊なる神の言われるとおりとすると、神様の祝福と永遠のいのちが与えられます。

祈り 天のお父さま、蒔くものを刈り取ることをよく知って、自分の欲ではなく、あなたの言われる通り歩ませてください。

10月5日（土）

聖書 ガラテヤ6・9～10

聖句 失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続けられ、時が来て刈り取ることにあります。
9節

種を蒔いても次の日すぐに芽は出ません。まだかなあって待ちくたびれることもあるかも知れませんね。善いことをしつづけることが大切ですと、今日のみ言葉は言います。疲れてあきらめたりしないように。なまけないで、つまりやめないでやりつづけていくと、うれしい刈り取りがあるにちがいありません。だから機会を見つけて、だれにでも、特に信仰の友たちである教会のみんなに対して、刈り取りを楽しみにして善を行いつづけましょう。

祈り 天のお父さま、してほしいと思う善いことを、まわりの信仰の友にしてあげることが出来ますように。